

CAMD セミナー

(Center for Development of Advanced Medicine for Dementia)

形質膜タンパク質の品質管理機構と創薬標的

関西学院大学 理工学部
生命科学科生命医化学専攻 准教授

沖米田 司 博士

平成 26 年 5 月 30 日 (金) 午後 4 時 00 分～
第 1 研究棟 2 階 大会議室

タンパク質品質管理機構は遺伝子変異やストレスにより生じた異常タンパク質を特異的に認識し、分解・除去することで、細胞の恒常性（プロテオスタシス）を維持する。一方、タンパク質品質管理の異常は、凝集体形成やタンパク質機能異常を引き起こし、様々な病態を引き起こす。我々は、白色人種で頻度が高い遺伝病である嚢胞性線維症（Cystic Fibrosis）に関わる塩素イオンチャネル CFTR をモデルとして、形質膜タンパク質品質管理機構の解析を行ってきた。本セミナーでは、我々が明らかにしてきた形質膜における異常膜タンパク質のユビキチン化依存的分解機構と、小胞体における CFTR チェックポイント機構と共に、嚢胞性線維症の新しい創薬標的について議論したい。

連絡先：認知症先進医療開発センター
アルツハイマー病研究部 飯島浩一（内線 6408）